午後１時00分　開始

【秘書広報課長補佐】　お待たせをいたしました。

定例の時間となりましたので、ただいまより平成26年11月市長定例記者会見を始めさせていただきます。

本日の進行につきましては、お手元の資料のとおり、最初に市長挨拶、その後、３つの項目について事業発表をさせていただきます。ご質問につきましては、この事業発表についてからお伺いをいたしたいと思います。なお終了は14時を予定いたしております。ご協力のほどよろしくお願いいたします。

それでは、市長、よろしくお願いします。

【市長】　先月の初めにリトアニア等々を訪問させていただきました。ドイツ、リトアニア、ポーランド、フランス、合計８回飛行機に乗りまして、大変強行日程でいろんなところを訪問でき、原子力関係、そしてまたリトアニアの杉原千畝さんの桜の植樹、13年前に行ったところの訪問。そしてポーランドの日赤の皆さん方との意見交換。そしてまたフランスでは、フランスの原子力安全規制局との懇談等を行いまして、一定の成果が上がったかなというふうに思います。いろんないい資料といいますか、またムゼウムのほうに展示をしておきますので、またごらんになっていただきたいなというふうに存じます。

それと、ことし、台風20号が発生をして、かなり大型ということでおりますけれども、ひょっとすると余り日本に影響がないような進路で進んでおりますので安心はいたしております。もうこれから台風というのは、もうないだろうというふうに思いますし、ことしは余り大きな災害といいますか、私どもの地域のほうには影響がなかったので安堵はしておりますけれども、これからもいろんな災害情報の提供を含めて反省するところもあるというふうに思いますので、しっかりと情報を収集しながら安心、安全のまちづくりにこれからも一層頑張ってまいりたい、このように思っているところでございます。

それでは座って、発表項目に従ってお話をさせていただきます。

まず平成26年度の防災訓練であります。今ほどお話をさせていただいた災害に対応するための備えという部分で、これはこれからもしっかり行っていきたい、このように思っているところでございます。日時につきましては、９日の日曜日でございまして、中郷地区を中心とした形で行いたい、このように思っているところでございます。

今回は、特徴でありますけれども、避難所の宿泊体験訓練というのを開催する予定でございまして、これは初めてだというふうに思っております。最近では避難所での生活を余儀なくされておる事案も出てきておりますので、こういうこともしっかり訓練をしておきたい、このように思っておるところでございますし、避難所の運営ゲーム、これも実施をしながら、避難所にはどのような人材、また役割、物資が必要か等を住民の皆さん方とともに検討していきたい、このように思っているところでございます。

また、展示、体験型ブースの訓練なども行いながら幅広い世代への防災への啓発も実施をして、やはり何といいましても市民一人一人が災害に対応する災害対応力、これがやはり市民の皆さん方を守る一番重要な要素でございますので、そういうことを含めてしっかりと訓練をしてまいりたい、このように思っているところでございます。

当日、記者の皆さん方にもぜひご参加をいただき、いろいろと見ていただきたい、このように存じておるところでございます。

２番目であります。除排雪計画でございます。除雪、排雪の計画でありますけれども。

昨年の冬といいますか、ことしにも年度がかかっておりますけれども、余り雪も降らなかったなということで思っておりますが、こればかりはなかなか予想が立てにくいところでございますので、毎年でありますけれども今月の15日から３月31日まで、私ども除雪期間ということで、この計画を立てながら実施をさせていただいております。特に車道及び歩道の除雪ということで、敦賀市の土木協会、そして管工事組合、造園組合の皆さん方に委託をしながら実施をしているものでございます。

通常、積雪が10センチに達した場合に出動しながら、平日でありますと朝の出勤がございますのでその出勤に間に合うような形で、また通学も当然でありますけれども間に合うような形で朝の７時ごろには作業を終えたい、このように思っております。ただ、雪の降り方によりましてはなかなかこれが対応できない場合もございますので、ぜひやはりこれ

は市民の皆さん方のご協力が必要でございます。今後とも市民の皆さん方とともに、しっかりとした形で除排雪ができるように努力をしていきたいなというふうに思います。
　昨年度は、歩道の除雪車２台増設をしたわけでございますが、今度新たにロータリーの除雪車を１台増車いたしました。特に歩道の除雪作業時間の短縮、また豪雪時の車道拡幅に威力を発揮しているんじゃないかなというふうに考えておるところでございます。
　除雪については以上でございます。
　次、３点目であります。私、あすからベトナムのほうに訪問させていただきます。私ども嶺南地域で、特に町村会の皆さん方が各町の共同課題につきまして調査研究を行って、その施策を反映しているということでありますけれども、特に舞鶴若狭自動車道の全線開通によりまして日本海側の物流拠点として、より重要な敦賀港の活用、大事でありますし、また嶺南全体の地域振興策につきまして研究を行うということで、ベトナムを訪問するということでございまして、同会からぜひ市長にも参加をしていただいて、敦賀の港が大きく関係するということ、また観光ということ、それとベトナムはご承知のとおり原子力を推進するという国でございますので、そういう関係者の皆さん方とも懇談をすると同時に、ぜひベトナムの研究者、実は福井大学の原子力工学研究所にも来ておりましたし、そういう皆さん方。やはりアジア地域の原子力発電所は安全に運転をされなくてはなりません。日本のそういう安全技術等々の勉強にということで、学生の誘致も含めて行ってまいりたい、このように思っているところでございます。
　行程はこれも大変タイトでございますけれども、５、６、７日の夜には飛行機に乗って、８日の朝に敦賀に帰ってくる予定でございます。概要等々につきましては、そこに書いてあるとおりでございますので、よろしくお願い申し上げます。
　以上、私のほうからの報告でございます。
【秘書広報課長補佐】　ありがとうございました。
　それでは、ただいま発表いたしました３項目につきましてご質問をお受けいたしたいと思います。
　最初に、幹事社様のほうからお願いいたします。
【記者】　ベトナム訪問について何点かお伺いします。
　まず、市長以外に首長さんで行かれるというのは、どなたが行かれるんですか。
【市長】　美浜町長、若狭町長、おおい町長、高浜町長です。
【記者】　市長を入れて５市町の首長さんが行かれると。
【市長】　それと嶺南振興局長も行きます。
【記者】　行程にありますけれども、現地の日本企業訪問ということなんですけれども、例えばどういう企業を訪問されるのか。
【市長】　デンヨーさんがベトナムに進出しておりまして、いろんな材料等もできれば敦賀港を活用いただけないかなということを含めて、行ってまいりたいなと思っています。
【記者】　もう１点、原子力事業者の訪問ということ、これは具体的にはどこになるんですか。
【市長】　現地の日本の皆さん方を含めて、本当はニントゥアン省というところへ行きたかったんですけれども、日程の関係で、非常に遠いところなものですからそこには行けませんけれども、ベトナムの政府関係者に先ほど言いましたような形で、連携大学のＰＲを含めて行ってきたいなと思っています。
【記者】　もう１点、初めの挨拶にありましたけれども、ムゼウムのことなんですけれども、何点ぐらいの資料が今展示されているんですか。
【市長】　ポーランド語で書かれた本でありますとか、帰るときに本だけで二十数キロの重さになりましたので、そういういろんな資料とか、勲章も実はいただきまして、ポーランドの日赤から勲章などもいただいた。そういうものを展示してありますので。
　もう展示してあるのかな……。なるべく早いうちに整理して、置く場所のこともありますので、また皆さん見ていただきたいと思っています。
【秘書広報課長補佐】　続きまして、幹事社様どうぞ。
【記者】　ベトナムのことでもう一回。
　４町長が所属する若狭地方町村会からの要請、同行依頼があったためということですけ

れども、市長のこの場合のお立場というか、どういうお立場で行かれることになるんですか。
【市長】　私は敦賀市長ですから。
【記者】　敦賀市長としてですが、町村会のメンバーではないですよね。だから例えば。
【市長】　顧問みたいなとかですか。
【記者】　ええ、何かそういう。
【市長】　それは同じ嶺南地域の一員ですので、先ほど言いましたように敦賀港を有する地域でもございますので、皆さん方とともに行ってきたいなというふうに思っています。
【記者】　あと原子力事業者の訪問のことで政府関係者とお会いになるというふうにおっしゃいましたけれども、政府関係者と原子力事業者と一緒に会うということなんですか。
【市長】　まだ細かい日程ちょっと聞いてはいないんですけれども、私のほうからはそのような要望は出しております。
【記者】　ニントゥアン省のほうには行かないのですが、会談の予定というか、どこでお話をされるのか。
【市長】　恐らくベトナムの市内でお会いできるんじゃないかなと思います。ハノイですか。ベトナムは国内と言わなあかんのやね。
【記者】　概要のところに、現地において新たな原子力発電所の建設を行っている日本の事業者というふうになっていますけれども、もう建設を始めているんでしたっけ、ニントゥアン省の原子力は。まだ原電さんが調査をやっている段階じゃなかったですか。
【市長】　でもこれは着実に進む話でしょうから、恐らく土地の買収等々、着手はしているというふうに聞いているんですけれども、建設がどんどん進んでいるというのはわかりません。そのあたりも含めてお話をしっかり聞いてきます。
【記者】　記憶違いでなければ、どこの電力事業者がやるかどうかわからんけれども、日本原電さんが調査をやっているという段階だったような気がするんですが。それはまた後ほどでも確認させてください。
【市長】　わかりました。
【記者】　あと、９日の防災訓練のことについて一つ教えてください。
　宿泊体験訓練というのは非常に手間もかかるし大変だと思うんです。大変珍しい訓練かと思うんですが、これに参加される、どういった方で何人ぐらいになるのかというのをこの際教えていただけますか。
【理事 市民生活担当】　お答えします。約、今のところ40名で、地域の方、区長さんであるとか、それから防災士さんとかいった。中心は地域の皆さん、対象地区が東郷地区、愛発地区、中郷地区の３地区が今回の訓練の対象地区でございますので、そこの住民の方が中心でございます。
【記者】　東郷、愛発、中郷の地区の区長さんなどの幹部など40人ぐらいということですか。ありがとうございます。
【秘書広報課長補佐】　それでは、各社様お伺いいたします。事業発表につきまして、ご質問ありましたら挙手をお願いいたします。
【記者】　まず、除雪に関して今年度予算はどのくらいを予定していますか。
【建設水道部長】　今年度の予算は約9,540万円でございます。
【記者】　前年との比較はどうなっていますか。
【建設水道部長】　昨年度は8,660万円。
【記者】　増加の理由は。
【建設水道部長】　電力料等が実績に応じて少しふやしたということでございます。
【記者】　あと、本当に初歩的な質問で恐縮なんですが、防災訓練に当たって、敦賀市はどういう地震を想定しているんですか。名古屋ですと東南海とかいう想定する地震があるんですけれども、敦賀ではどのような地震を、震度６強というのはどのような状況を想定しているのでしょうか。
【理事 市民生活担当】　断層の直下型地震でございます。
【記者】　個別に、もうそろそろ周期だというものはあるわけでしょうか。300年、500年、600年という周期で断層の場合はあるんですけれども。

【理事 市民生活担当】　そういうのはございません。
【記者】　了解しました。ありがとうございます。
【記者】　１点まず確認が、ポートセールスというか、ベトナムで現地企業というのは、デンギョウさん、既に行っている会社。片仮名で……。会社名。
【市長】　デンヨーさんって旧三方、若狭町にある大きな企業でして、そこがハノイのほうで運営されているということです。
【記者】　それ以外でも結構進出が見込めそうな企業ってほかにもいろいろあるわけですか。
【市長】　私どもは余り、どうぞ行ってくださいという立場ではございません。やはり現にあるところといろいろお話をしながら、敦賀港のご利用などもお願いしてきたいなと思っています。
　ただ全国的には、ベトナムはエネルギー政策もしっかり原子力を含めて推進しようと。いい電力も供給できる。また非常に人件費も安いように聞いておりまして、そういうもので進出する企業はこれからもふえてくる国じゃないかなというふうに予想はいたしております。
【記者】　あと１点、追加でお教えいただきたいんですけれども、多分、敦賀港、ここ二、三カ月ぐらいかな、ごそっと荷物のコンテナ取り扱いが減っていて、多分、日本板硝子か何かが工場を韓国に移した影響が大きいと思うんですけれども、今の敦賀港の状況、ちょっと厳しい状況にあるのか一過的なものなのか。それと、どう発展させたいかというのを簡単に教えていただければと思います。
【市長】　今ご指摘のとおり、日本板硝子さんが韓国のほうに製造工場を持っていかれたということでありまして、そういう面でかなりコンテナの取り扱いが落ち込んできているのは現状です。もちろんこれからも県内を含めた近隣のいろんな企業さんを訪問しながら、今現にやっておりますけれども、敦賀港の優位性、そしてまた太平洋側の皆さん方には気の毒でありますけれども、また起こってほしくはないですが、やはり非常に災害発生のリスクがあるという中で、リスク分散という意味も含めて、ぜひ敦賀港のご利用、少しでも結構でございますので、そういうものがあればというお話をしながら回っておりますので、またそういう効果も徐々に出てくるんじゃないかなというふうに期待をいたしております。
　今は一つの会社が移転をしたということで落ち込んでおりますけれども、これからもしっかり原状回復を、そしてそれ以上に取扱量が伸びるように最大の努力をしていきたい、このように思っています。
【記者】　わかりました。
【記者】　若狭地方町村会の会長さんって誰なんでしょうか。
【市長】　美浜町長さんです。
【記者】　事務局も美浜町にあるんですか。
【市長】　そうです。
【記者】　ベトナム訪問についてなんですけれども、今回このタイミングで行かれる狙いとして、原子力背景についての調査研究とあるんですけれども、このタイミングで嶺南の立地の全首長さんが行かれる狙いというか目的みたいなものをもうちょっと詳しく教えていただけますか。
【市長】　これはあくまでも町村会の皆さん方が主体に計画していただいて、私はそれにぜひ一緒にというお話でありますので、できたら町村会の皆さん方に聞いていただいたほうが正確にわかると思います。
【記者】　市長としては、ベトナムに行かれて、事業者なり政府関係者なりと会って、どういうふうな情報を収集したいとお考えでしょうか。
【市長】　私ども原子力立地地域、嶺南にあります立地地域の全ての首長がちょうど参加する形になっておりますので、そういう中で今、私どもの日本においては再稼働を含めて厳しい状況にもあります。しかし半面、ベトナム、東アジア、中国を含めて、いろいろ原子力政策はどんどん進んでいくという背景がございますので、そういうものの国際的な事情、国の事情なども聞いてまいりたい、このように思っています。

【秘書広報課長補佐】　ほかにございますでしょうか。
　それでは、フリーの質疑応答のほうへ移らせていただきます。これも幹事社様のほうからよろしくお願いいたします。
【記者】　市長にお伺いしたいんですけれども、先日、某紙で西浦１、２号線のことが出ていましたけれども、それで何点か確認させていただきたいんですけれども。
　記事では、15年度以降は原電からの支払いをやめるというふうに市に伝えたということなんですけれども。15年度以降はとりあえず払わないと。14年度までは市道のほう、西浦。2015年度以降、支払わないというふうに市に伝えたというふうに出ているんですけれども、事実ですか。
【市長】　この道路の経緯は、ご承知のとおり原子力、実は地元に対しては、３・４号機の出た話の当時でありますけれども、こういう道路は地元の条件としてつくってほしいんだというお話が出ておりました。そして震災以前は、土地を造成しながら順調にそういう事業が進んでおる中で、会社としてもこの道路はぜひ必要であるし、地元住民との約束であるのでつくりたい。当然、県道でありますので、県道のところにつくる道路ですから県が本来やるのが私は本筋だというふうに思っておりますが、なかなか県当局は委託という形でやるのは難しいということで、かたくなに前に進まなかった経緯がございます。地元の皆さん方は、県がしようが誰がしようが道が欲しいんだと。道路が安全に何かあったときに避難できる道路、生活道路としてふだん使っておりますので必要だという声を受けて、私ども市のレベルでは、あれだけの工事やりますと非常に人手もかかりますし苦労も多いんですけれども、やはり地元の声、地元の皆さん方の生活、また防災、減災を最優先に考えながら市としてやろうということで決めまして、その財源については会社。これは本来、会社でつくってもらってもいいんですが、なかなかあれだけの道路をつくるというのは行政機関が入りませんと現実問題としてできないということでありますので、市として応援をしながら、財源については会社が負担するという形で取り組んできた道路でございます。
　そういう意味で、会社としては完成するまでは私は財源のほうは大丈夫だというふうに伺っておりますけれども、３・11以降、会社のほうも今全て停止しているという中で、非常に台所事情が苦しいなということも私どもも理解できますけれども、今あの状況で工事をストップしてしまうわけにもいかないというのも現状でありますので、継続できるような形でお願いをしておるところでございます。
【記者】　今現在、原電のほうは2015年度以降は、そういう状況なので払えないというふうに。
【市長】　今つくっているトンネル等は完成をさせて、あそこは通れるようになると思うんです。ただ、西浦１号、２号ありますから、ちょうど皆さんご承知かな、常宮神社ありますね。あの裏をずっと抜けて縄間のほうまで実はつなぐようになっているんです。でもあそこの難所というのは結局、上に上がってぐるぐるぐるぐるカーブのあるところが一つの難所ですので、こっちの裏の道路については今の会社の事情ではそこまで全部完成させるというのは難しいと、現時点では。というお話の中でのお話をいただいたような形だというふうに思います。
　今のトンネル掘っていますね。あそこから、沓のところから少し曲がりますけれども入って、そのトンネルを利用して手の浦へ抜けることは可能です。それはそう遠くない時期に完成をしますが、先ほど言った裏のほうに通る、まだ結構長いんですけれども、その道路については今の会社の状況では難しいのでということで、それは私ども理解しております。
【記者】　まだ全体、３分の１ぐらいだと思うんですけれども、トンネルとか含めて。あと３分の２ぐらいが残っていると思うんですけれども、そこを会社のほうで出せないというのであれば、市のほうで負担してということはあるんでしょうか。
【市長】　長さ的には３分の２でありますけれども、３分の１のところはトンネル部分の話でして、そこは完成します。それが完成すればかなり便利に通勤にも生活道路にも使えますので、それはなるべく早く供用が開始できるように努力しますが、その裏のほうについては、今の道路、ちょうど常宮神社の前を走っている道路ありますね。あそこを利用していただく形でおりまして、市が負担をして後ろをやるということはありません。

また会社の事情がよくなって、こちらのほうも何とか会社としてもつくれるという余力ができたときには、また会社の負担金としていただいて、市が、これは市道になっていますので市がつくる話だと思っています。
【記者】　わかりました。
あとちょっと別の質問なんですけれども、川内原発が再稼働に向けて今動いているんですけれども、それで少し再稼働について市長の認識というのを確認させていただきたいんですけれども。
これまで田中俊一委員長は、再稼働するかどうかというのは社会であるとか国民、政治の判断で、規制委が判断することではないとおっしゃっているんですけれども、その見解に対してどのように思われるかというのをまず教えていただきたいんですけれども。
【市長】　これは規制委員会は規制委員会の仕事をして、安全というふうに確認をしたものは、あとはやはり政府の責任によって地元の同意を得ながら動かしていくということでありまして、今回、地元の岩切市長、また鹿児島県知事もそれでいいだろうというご判断をされましたので、そのとおりで規制庁としては、また政府としては規制庁が安全だというふうに確認されたら動かすということでありますので、そういうステップに従って今進んでいるものだというふうに認識をいたしております。
【記者】　再稼働の判断に関しては、政府が責任を持つということですね。これまでもおっしゃっていましたが。
【市長】　そのとおりです。
【記者】　あと田中委員長は、社会や国民の判断とも言っているんですけれども、社会や国民の判断というのは必要だと思われますか。
【市長】　社会、国民の判断といいますのは、やはり地方であれば議会、また国であれば国政ということでありまして、全て国民投票でやるというのは余りそぐわない課題かなというふうに思います。
【記者】　もう１点だけ。再稼働する際には、慣例的には立地自治体の同意を得れば、例えば敦賀原発だったら敦賀市と、あと県という感じなんですけれども、ということなんですけれども、避難計画の30キロ圏の同意というものは必要であるか否か、どちらでしょうか。
【市長】　まず、同意というのはあくまでも紳士協定の同意でありまして、法的にはまず根拠のないものであります。そういう意味で、私どもは地元に建っているから一つの了解的なお話であります。ただ30キロ圏内の皆さん方にもやはり説明といいますか、こういう形で行わせていただきますよという説明はあってもいいんじゃないかなというふうに思っています。
【記者】　ありがとうございます。
【秘書広報課長補佐】　それでは、同じく幹事社様。
【記者】　２点お伺いします。
１点目は、今の原電さんからの寄附のお話です。
2012年までの寄附については、我々か資料で原電からの寄附があったことを、我々もそうですし市議会のほうでも一般に寄附者の名前が出ていて、原子力政策であるとかそれに関するものに非常にオープンな姿勢を敦賀市は示されていて、私ほかの行政を取材した経験からいうと、非常に前向きで、いい取り組みだなというふうに感心をしていたところでありました。
ところが今回、ここ２年間のところは、向こうの寄附者の要請によって寄附者の名前を伏せるように要請があり、それを受けたと。それまでの敦賀市の取り組みとは逆行するような形になっておりますが、せっかくの公開をするという、非常に原子力政策についてオープンに進めていこうという河瀬さんの今までの取り組みとは逆行するような流れになっているかと思いますが、それは一体どういったことでこういうふうになったのでしょうか。
【市長】　これは会社の方と直接お話は聞いておりませんけれども、報道によると、震災以降、大変会社は厳しい状況の中で、寄附をということについて非常に市民の理解を得られないのでというお話をされておりましたし、私どもも他の自治体のことは余り存じませんけれども、私は寄附していただいたものは堂々と出して、会社としてこれだけ地域に貢

献していただいているんですよということを市民の皆さん方に知っていただこうということで公開をするように取り組んできたところでございます。
　ただ、やはり震災以降の会社の状況の中で、これはあくまでも寄附をいただける方の意思を尊重するのがやはりいただく側のお応えすべき対応だというふうに思っておりまして、今回もそういう面で実は私は寄附というよりも、これは会社の従業員の皆さん方が実は一番よく利用するんですね、あそこを通るのに。もちろん地元の皆さん方のために、先ほど言いましたように地元の一つの生活道路、また、いざというときの避難道路になる道路でありますけれども、会社の皆さん方がふだん使う道路。また、３・11がなくて３・４号がもし順調に行っていれば、その道路を使いながら仕事もかかるわけでありますので、寄附金というよりも負担金、要するに自分のところで必要だから負担をしてやる道路ですよということで、それはご理解いただいて負担金という形でこれから計上するというふうに思っておりますが、そのちょうど端境期の中で、ああいういろんな事態も発生しながら、会社として最大限気を使われてそういう形になったんじゃないかなというふうに理解をいたしております。
【記者】　よくわかります。では、そういうふうにして名前を伏せることになってしまった理由はわかりますけれども、公明正大、オープンにしてきた河瀬さんとしては、それが後退したものではないというふうにお感じなのでしょうか。
【市長】　全く後退したつもりはございませんし、あれだけの工事をしながら目に見える形で進んできておりますし、財源は日本原電さんからの寄附をいただいてつくっておりますので、それが継続してあるということは当然日本原電さんから出てくるものでありますし、例えばそれが市なりほかの私どもがお金を出せば、当然予算に西浦１、２号線のために予算をつけますよということで明らかに出てまいりますので、先ほど言いました寄附が負担金かという中の端境期の中で、会社もちょっと考えられた時期がちょうどこの時期だったんじゃないかなというふうに想像はいたしております。
【記者】　では続けて。
　先日、塚本副市長が来年春の敦賀市長選に出馬、いろんな諸般の事情でできないというふうに態度を明らかにされました。大変お悩みになったとは思いますけれども。
　今後、じゃ河瀬さんとして、従来の河瀬市政の大まかな方向性を堅持する次の候補者についての選び方、その時期についてどのようなお考えを持っているか、この場でせっかくですのでお聞かせください。
【市長】　河瀬市政の継承ということはないんですね。第６次総合計画、これは市民の皆様、議会の皆さん方とともにつくり上げて、まだ道半ばの計画でございますので、その計画を遂行していただける方ということで、私は塚本さんが一番ふさわしいというふうに考えておりましたけれども、これはやはり個人的な理由ということで、いたし方ないというふうに今は思っております。
　そこで今、仄聞をしますと、市議会の中から市長を出そうじゃないかという動きがあるやに聞いておりますので、そのことをしばらく見守らせていただきながら、こういう人が出てくる、頼もしいなということがあれば、またそういう方になっていただけるように希望をいたしております。
【記者】　ありがとうございます。
　ただ、９月に市長が態度を表明されたように、今回はしっかりと選挙運動をやって次の方にやっていただこうということで早目にされました。ただし、もう時が過ぎて11月になってしまいました。いつまでも見守っているわけにはいかないかと思うんですが、次のそれが決まっていく時期、決めなきゃいけない時期というのは、いつごろまでには決めなきゃいけないというふうにお考えでしょうか。
【市長】　選挙というのは、長くやっていればいいものでもありませんし、戦いというのはいろんな戦い方があるというふうに思います。それはやはり志を決めた方が実行していくところでありますので、志を決めた方がしっかり判断をされたときが一番いい時期かなというふうに思っておりまして、長いこと選挙をやっておりますと、先ほど言いましたように早くからやったからいい、遅かったから悪いということは決してない、このように思っています。

【秘書広報課長補佐】　それでは、各社ご質問をお伺いいたします。ご質問ございましたら挙手をお願いいたします。
【記者】　先ほどの道路の件で念のため確認したいんですけれども、まずは何としても仕上げなきゃいけないという部分は、必要度が高いところは３分の１ぐらいは何としても早めに、早期に仕上げて、それほど重要度が高くない部分は、市としては市自身の金で完成させるつもりはないという、そういうことでよかったでしたっけ。
【市長】　市自身のというんじゃなくて、トンネルを掘って、ほとんどでき上がって、そこの道路が供用開始できるようになります。それは早く供用開始したほうがいいと思うんですね。記者も行ったことあるかもしれませんけれども、ずっと上がりながら、ぐねぐねぐねぐね曲がりながら、大変危険度も高い道路ですので、そこが下がトンネル抜けて便利になればいいと思いますし、それはそれでなるべく早く完成するように最善の努力をしたいなというふうに思っております。
　ただ本来ですと、今利用していただいている道路も生活道路の一部でありますから。それと、あそこは実は高潮があったときに砂が入り込んだりしまして通行がしにくくなった時期がございました。そういう意味では、後ろのほうに、財政的なことが会社として許されるようになれば、また後ろのほうはしっかりつくっていきたいなと思っております。
　ただ高潮というのは、毎年もありません。何十年に一遍ありまして、それも砂をのけることも可能ですので、そういう意味では危険度というのはそうは高くありませんが、やはりいい道路が抜けていけば、地域住民の皆さん方はより安心して暮らせるというふうに思います。
【記者】　先ほどの市長選の関係であと２点教えていただきたいんですけれども。
　まず１点が、市長はもうこれ以上、５期で終わりということで、出られないということを会見で説明されましたけれども、例えば今後なかなか総合計画を引き継いでくれる人が見つからない場合であったとしても、100％前言撤回で出るということはあり得ないのか、それとも状況次第なのかというのが１点と。
　あと今後の記事とか取材等で参考にしたいので確認できればと思ったのが、市長さんが後援会とか親しい方々に俺はもう次出ないと言ったのが、韓国のフェリーの飛鳥の船の上からあちこちへ電話されたというううわさを聞いたんですけれども、それが本当かどうか確認できればと。
【市長】　後援会の皆さん方には、集まりまして当然話をしました。ちょうど発表前ということで余り時間がなかったものですから、関係者といいますか親しい皆さん方には、例えば急に新聞やら記事に出るのに、わしは知らなんだというのはちょっと嫌なもので、電話でちょっと報告はしましたけれども、後援会等は集まってちゃんとしました。
　前段ですけれども、世の中に100％というのはありませんので、どうなるかということは保証はできませんけれども、基本的には前に発表したとおりで、できれば私も５期20年という大きな節目を迎えますし、精いっぱいやってきたつもりでありますので、また次のそういう志を持った人にやってもらったらいいなというふうに思っております。
【記者】　電話かけたのは飛鳥の船の上でよかったんですか。
【市長】　それは船の上は事実です。たまに通話できなくなったことありましたけれども、それでも何とか。案外、日本海に沿って走ったので、つながったところはつながりました。
【記者】　わかりました。ありがとうございます。
【記者】　先ほどの西浦１号、２号線に戻るんですけれども、我々の立場として他紙を引用するわけにはいきませんので具体的事実を確認しておきたいんですが、西浦１号線、２号線の計画はいつで、総延長が何キロで、今までの総事業費が幾らで、そのうち寄附金が、負担金と言い直してもいいですけれども原電からの寄附金は幾らなのか。ちょっとその部分を市のほうからお聞かせ願いたいんですが。
【建設水道部長】　まず延長なんですけれども、西浦１号線が約３キロ、西浦２号線800メートル。あと事業は平成21年度から着手いたしました。
【記者】　それは着工と言っていいですか。
【建設水道部長】　工事ではなくて、測量とか設計等ですね。21年から着手。
　これまでの事業費でございますが、総事業費が25年度末で19億7,900万円、約ですが。

【記者】　原電さんの負担金というか。
【建設水道部長】　これは全て負担金です。
【記者】　それは着手のときの測量、設計段階から含めて、市費は投じられていないということですか。
【建設水道部長】　そうです。
【記者】　当然、今のお話の流れで、来年度予算にはこの西浦１号線、２号線に関係する予算というのは計上しないということでよろしいわけですね。
【建設水道部長】　そうですね。
【記者】　ありがとうございます。
【建設水道部長】　26年度分は、まだ決算が終わっておりませんので、この総事業費には含めておりませんが。一応今年度の予算ということで、約５億7,799万円。
【記者】　そうすると、その５億8,000万を足せばいいわけですね、25年度末までの。
【建設水道部長】　そうです。よろしいでしょうか。
【記者】　どうもありがとうございます。
【記者】　今の西浦の市道の件なんですが、来年度以降、市が負担をお金一切しない理由というのは、どういう理由でしょうか。
【市長】　これは先ほど言いましたように、日本原電の３・４号機の増設のときに地元の皆さん方とのお約束ということでありますので、約束事を日本原電さんが実行していただいているということであります。ただ、約束したものの、今会社として大変厳しい時期なので、しばらくその部分については待ってほしいということでありまして、決して会社も全くやらないよと言ったわけではないわけでありまして、そこを市としてそれだけ緊急性というものがない中で、市費を投じてやるということはない、このように思っています。
【記者】　今のお話だと、緊急性が低いから、すぐに市費を投入する必要はないということですよね。
【市長】　これは約束なものですから、いずれはやっていただけるものというふうに思いますが、その場所、何度も言いますけれども、山の上をぐねぐねぐねぐね行く道をトンネルで抜くのとの違い。これはどなたが見ていただいてもわかると思います。
【記者】　また敦賀市長選のことで恐縮なんですけれども、塚本副市長は、個人的な理由で、簡単に言えば家族の理解が得られなかったので出馬するに至らなかったということだったと思うんですが、市長は後継指名するときに、そういった家族の問題、そういったものもクリアにしてもらったからこそ塚本副市長を後継として名前を出したのではなかったのでしょうか。
【市長】　そのとおりであります。やはり世の中流れておりますので、いろいろと事情が変わられたということで理解しておりますし、やはり政治家というのは家族の理解がありませんとなかなかこのような仕事はできませんので、これはいたし方ない、このように思っています。
【記者】　あと、この前の塚本副市長の会見で、いわゆる後継の後継を探しているというお話だったと思うんですけれども、市長としては、後継指名を断った方が後継の後継を探すというのはどういうふうに考えていますか。
【市長】　それはやはり第６次総合計画を一生懸命やっていただけるすばらしい方を探そうということでしていただいておりますので、大変ありがたいことだというふうに思っております。
【記者】　西浦１、２号線の話に戻るんですけれども、仮の話で恐縮なんですが、防災道路と考えたときに、国や県に費用負担をお願いするというようなお考えというのは今後出てきたりされますでしょうか。
【市長】　これは先ほど言いましたように日本原電さんの今の状況等を考えながら、防災道路という性格があれば、やはり一元的に責任を持つ国として、じゃ国としても応援するよという形がとれればベストだというふうに思いますので、そのあたり、しばらく原子力の状況を見きわめながら、それはまた判断すべきだというふうに思っております。
【記者】　言いましたように、事業者の方も大変今苦しい状況でありますので、そこに頼り切るということもなかなか難しいということがあれば、やはり国としての判断を仰ぐと

いうことは非常に重要かなと思います。
【記者】　今の西浦１号線、２号線で、総事業費、今までの使ったお金をお聞きしたんですけれども、あと残りは何億円ぐらいなんですか。想定でいいですけれども。
【建設水道部長】　総事業費につきましては、まだ全ての計画、いわゆる調査が終わっておりませんので、今現在ではお答えすることができません。
　数十億というふうなところで。
【記者】　延長、１号線が３キロ、２号線が800メートルというのは、これは完成した部分。
【建設水道部長】　いや、これは計画延長です。
【記者】　このうちどのぐらいができているのか。
【建設水道部長】　今工事をしておりますが、トンネルとその前後ですね。暫定的に供用開始をしますのが、西浦１号線とは別に今の県道につながる沓５号線というのがあるんですけれども、これと西浦１号線をあわせて供用開始は約1,450メートルを今計画しております。
【記者】　西浦１号線は、そのうちの何メートルなんですか。1,450メートルのうちの。
【建設水道部長】　沓５号が約400メートル（※）ですから、約1,050メートル（※）ということになります。（※会見後訂正　沓５号：約0.23km、市道西浦１号線：約1.22km）
【記者】　これが３キロのうちの３分の１、1,050メートル（※）ということですね。
　２号線のほうは。
【建設水道部長】　ゼロです。
【記者】　どうもありがとうございました。
【市長】　大事なことを言い忘れて。その道路なんですけれども、あそこは実はトンネルを抜いて、何でトンネルを先にという話ですが、実は上水道を西浦へ引っ張っていく中で、手の浦地区とかは皆つながっておるんです。ところがまだ水は上水道が行ってない。というのは昔計画あったんですけれども、沓の越えたところの山の上に水のタンクをつくって、そこへ一度放り上げて、また流さんといかんものですから、それにまた数億のお金がかかる。それならトンネルの計画の中で、そのトンネルが抜ければ。
　もう今、布設しておるんやろう。
　トンネルに水道管をつないで。
　もう水行ったのかな。
【建設水道部長】　まだです。
【市長】　もうそう遠くない時期に西浦のほうに上水道が行くようになりまして、そういう意味でもトンネルのほうはちょっと早くやってほしかったということはございました。
【記者】　今の１、２号なんですが、このままでいくと財源がなくなって、ご努力はされるということですけれども、３・４号機の増設と密接に関係してくるのかなと思いますが、その辺をどのようにお考えなのでしょうか。
【市長】　もともと３・４号をつくる、計画するに当たっての地元との約束事であったわけでありまして、そういう意味で、おかげさんでトンネル部分はようやく完成し、私どもの上水道も西浦地区に供給ができるという体制が間もなくとれるわけでございますけれども、やはり３・４号をつくるに当たってのいろんな工事用の道路にもなりますし、そのあたりはまだ不透明な部分はございますけれども、国のエネルギーミックスなどがそう遠くない時期にしっかりと示されて、それと、かなり古くなってきた炉もあります。これをどうするか。そしてミックスが決まるということは、これは仮の話として、例えば原子力、ベースロード電源として20％ぐらいは日本として必要でしょうという答えが出てくれば、おのずと３・４号機は増設をしませんとそういうことが賄えないというふうに私は思っております。そういう意味で、もうしばらく国のエネルギー政策の状況を見きわめていって、そして古い炉もありますね。例えば日本原電の１号機、28年に運転終了、そして40年を超えておるというようなことも踏まえて、いろいろと電力の需給関係の計算をしていったときに、私は３・４号は必要だというふうに思っておりますので、そういう時点まで、いましばらく時間はかかりますけれども、決して３・４号機は要らない炉ではない、必要な私は原子力発電所であるというふうに理解をいたしております。
【記者】　塚本副市長に伺いたいんですけれども、アクアトムが９月に、敦賀市と福井県

が日本原子力機構から譲り受けるというのを申請するというふうな話が出ていたと思うんですけれども、あれから進捗状況ってどうなっていますか。
【塚本副市長】　おおむねのところを大体９月議会でも答弁させていただいたところなんですが、あのときも議会でも申し上げたように、その中身についてもう少し詰めないと、なかなか申請というレベルまで行かないわけです。その中で、今協議をしているんですけれども、この１カ月以上、２カ月にはならないかな。まだ十分煮詰まってないんです。
　今、中島理事、後ろにおりますけれども、まだ私のレベルまで上がってきていませんので、多分、部と課で県庁とやりとりしているんだというふうに思います。
【秘書広報課長補佐】　それでは、よろしいでしょうか。
　では、これをもちまして11月の市長定例記者会見を終了させていただきます。
　ご協力ありがとうございました。

午後１時55分　終了